

テーマ	港湾	変更概要	主な変更内容	備考
再生可能エネルギー (洋上風力)	秋田港	洋上風力発電の導入に資するため、「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点を形成する区域(緑囲み)」の位置づけ等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾計画の方針の追加</li> <li>緑囲みの位置づけ</li> </ul>	再掲
	鹿島港		<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾計画の方針の追加</li> <li>緑囲みの位置づけ</li> </ul>	再掲
	北九州港		<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾計画の方針の追加</li> <li>緑囲みの位置づけ</li> </ul>	再掲
再生可能エネルギー (バイオマス)	和歌山下津港	バイオマス発電所の新規立地に対応するため、専用ドルフィンを位置づけるとともに土地利用を変更する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ドルフィンの位置づけ</li> <li>土地利用計画の変更(危険物取扱施設用地⇒工業用地)</li> <li>土地造成計画(既定計画)の削除</li> </ul>	—
フェリー	大阪港	フェリー(大阪～新門司)の大型化に対応するため、岸壁の延伸を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェリー岸壁の延伸(230m⇒250m)</li> </ul>	—
クルーズ船	長崎港	近年のクルーズ需要の急増及びクルーズ船の大型化に対応するため、クルーズ船の受入機能の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅客船埠頭計画等の変更(16万GT+7万GT⇒16万GT+16万GT)</li> <li>土地利用計画の変更(緑地⇒埠頭用地)</li> </ul>	—

# 秋田港港湾計画 一部変更

前回改訂: 2018年7月(目標年次: 2030年代半ば)



# 計画変更の内容

## 【計画変更のポイント】

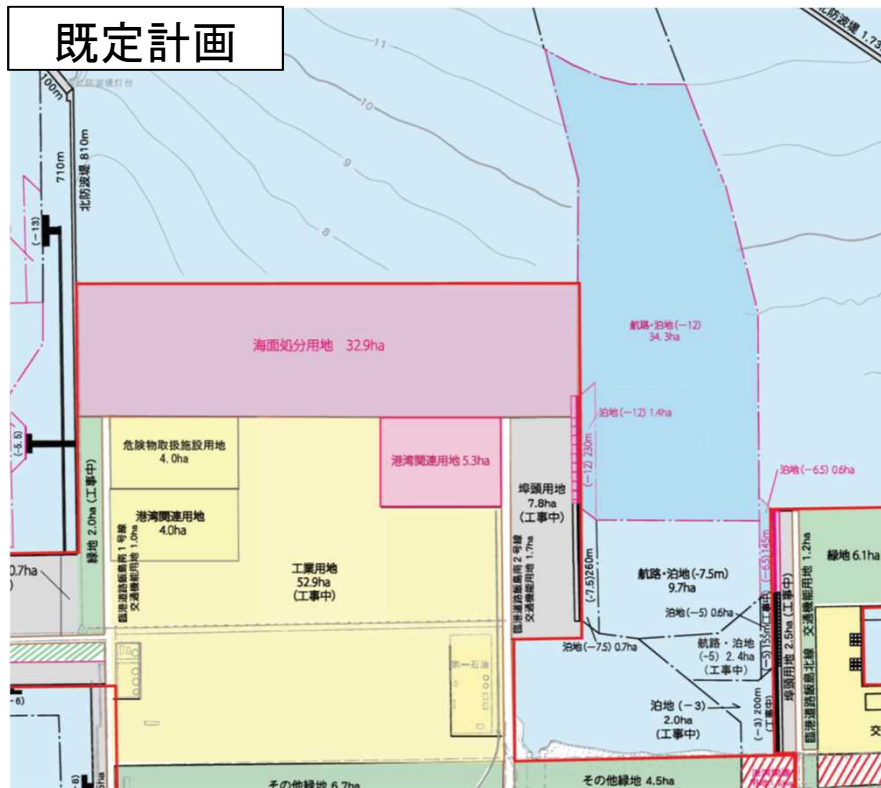
海洋再生可能エネルギー発電設備等の導入促進に資するため、「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」を位置づける。

## 【前回改訂からの状況変化】

- 関係法令※の整備等に伴い、今後、洋上風力発電の導入加速化が見込まれる。  
※「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」
- 海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理のための拠点が必要。

## 【主な計画変更内容】

- 「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」の位置づけ
  - ・岸壁 水深12m 延長230m
  - ・埠頭用地 8ha
- 土地利用計画の変更
  - ・港湾関連用地 5ha → 埠頭用地 5ha





# 計画変更の内容

## 【計画変更のポイント】

海洋再生可能エネルギー発電設備等の導入促進に資するため、「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」を位置づける。

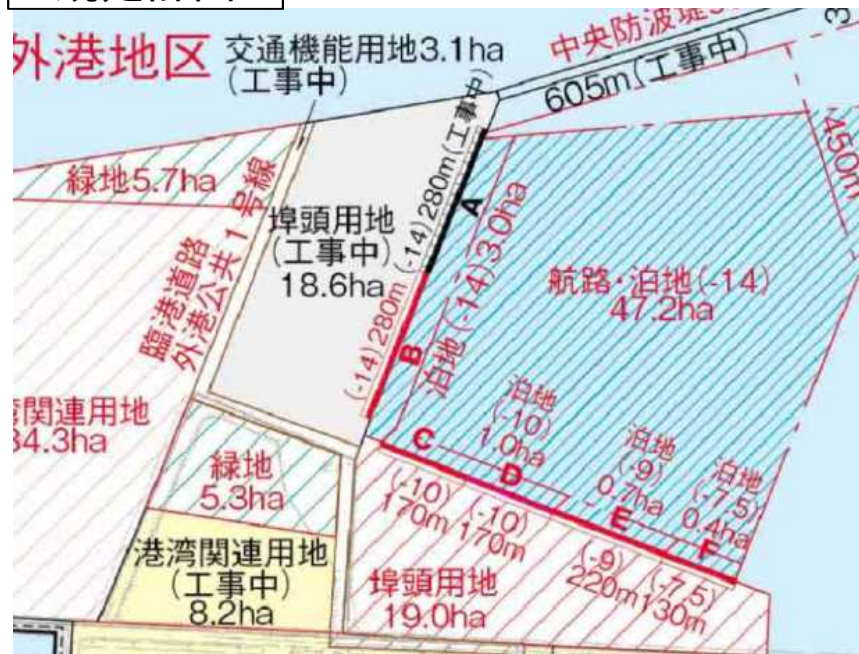
## 【前回改訂からの状況変化】

- 関係法令※の整備等に伴い、今後、洋上風力発電の導入加速化が見込まれる。  
※「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」
- 海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理のための拠点が必要。

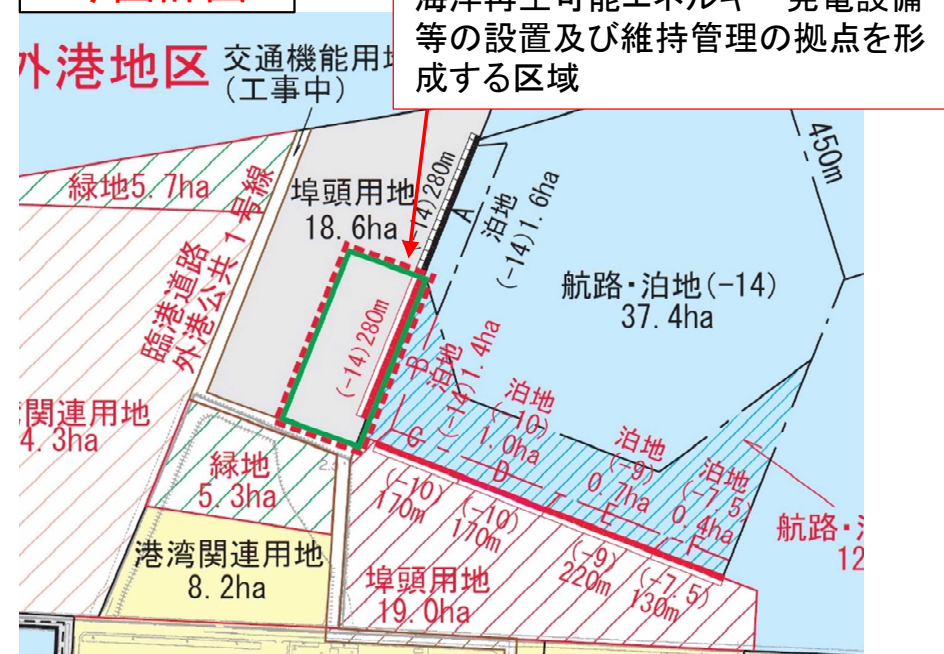
## 【主な計画変更内容】

- 「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」の位置づけ
  - ・水深14m 岸壁1バース 延長280m
  - ・埠頭用地 5ha

### 既定計画



### 今回計画



# 北九州港港湾計画 一部変更

前回改訂:2012年1月(目標年次:平成30年代前半)



# 計画変更の内容

## 【計画変更のポイント】

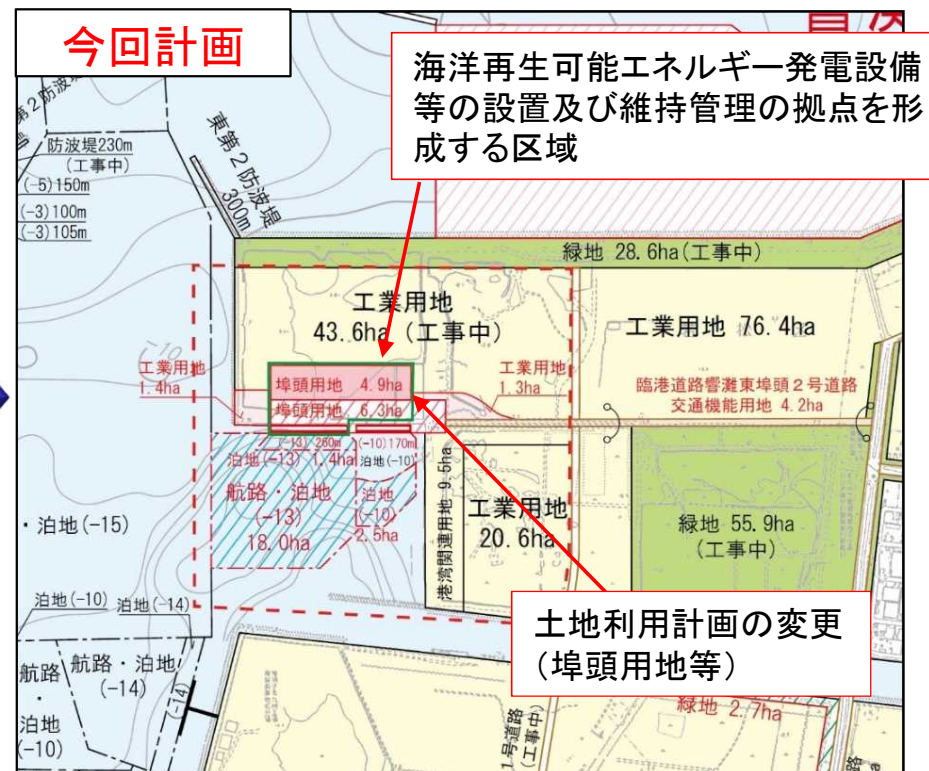
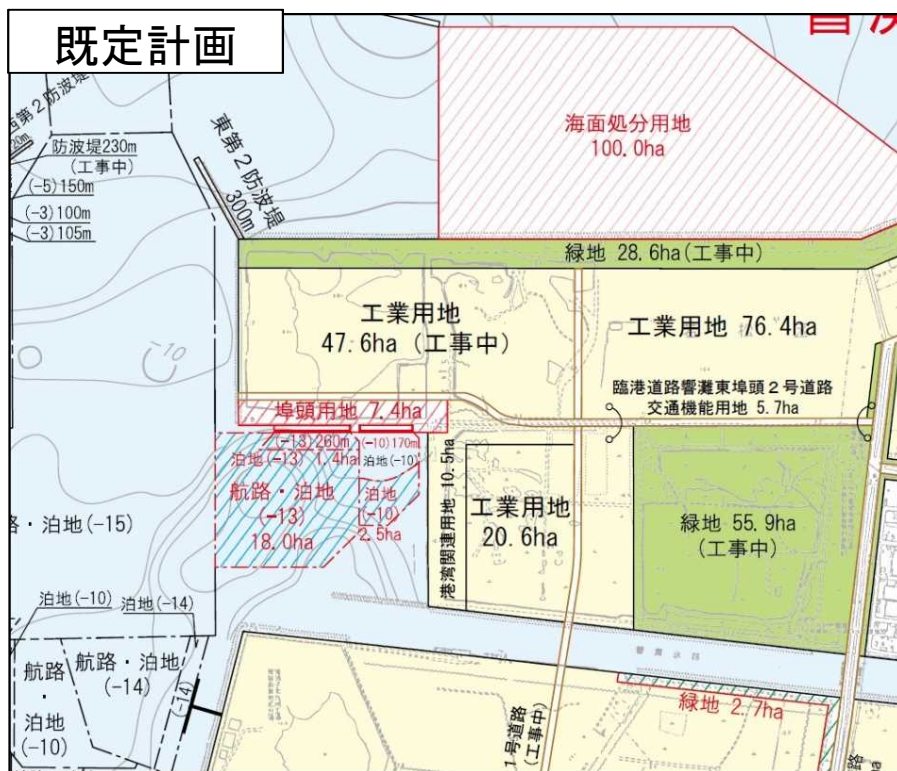
海洋再生可能エネルギー発電設備等の導入促進に資するため、「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」を位置づける。

## 【前回改訂からの状況変化】

- 関係法令※の整備等に伴い、今後、洋上風力発電の導入加速化が見込まれる。  
※「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」
- 海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理のための拠点が必要。

## 【主な計画変更内容】

- 「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点形成する区域」の位置づけ
  - ・岸壁 水深13m 延長260m
  - ・埠頭用地 8ha
- 土地利用計画の変更
  - ・埠頭用地 7ha → 11ha



# 和歌山下津港港湾計画 一部変更

前回改訂:1997年11月(目標年次:平成20年代後半)





## 【計画変更のポイント】

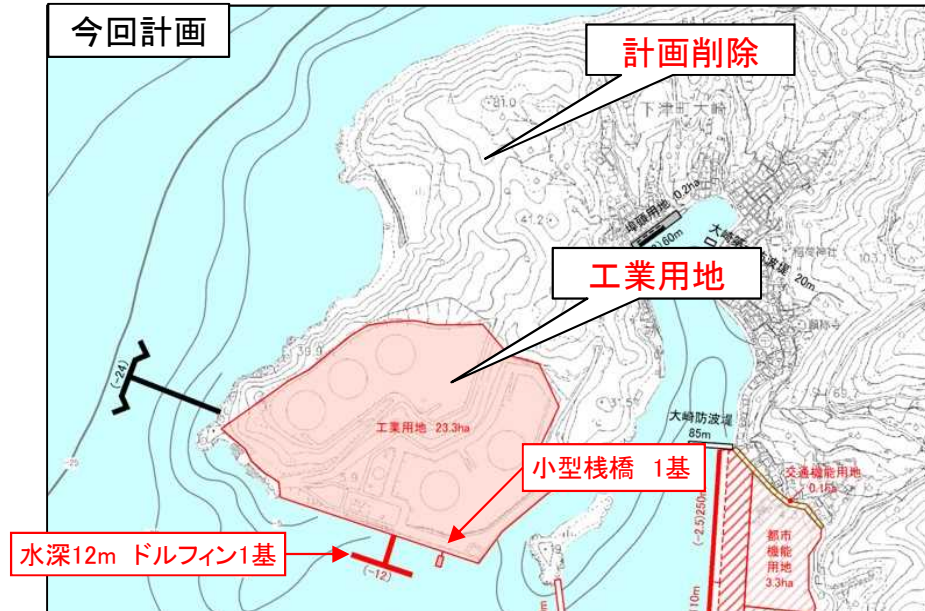
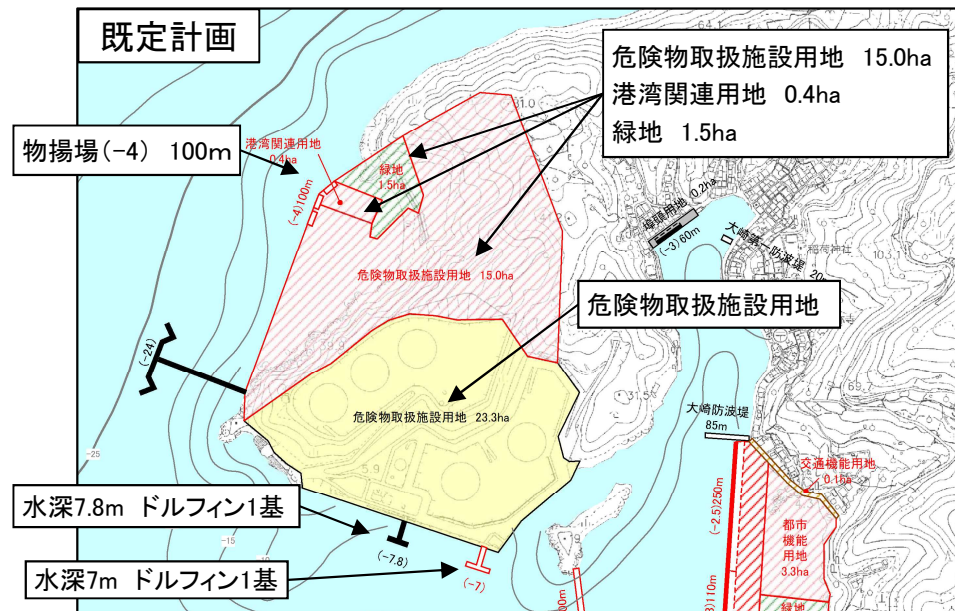
- バイオマス発電所の新規立地に対応するため、専用ドルフィンを位置づけるとともに土地利用を変更する。

### 【前回改訂からの状況変化】

- 貯油基地の廃止 (H29.3.31)
- バイオマス発電所が新規立地予定

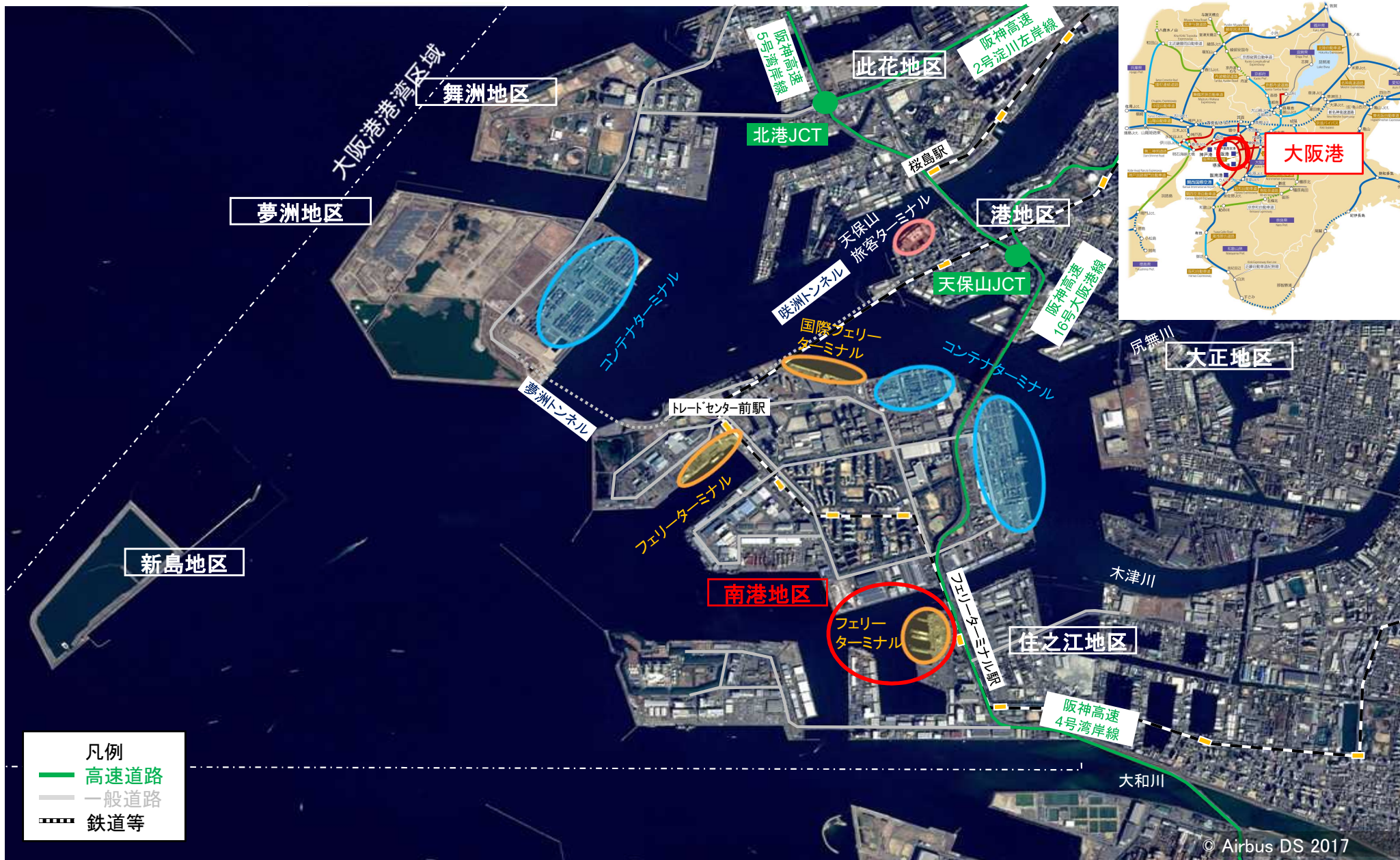
### 【主な計画変更内容】

- 専用埠頭計画等 ドルフィン(-7.8)1基[既設] → **ドルフィン(-12)1基[新規計画]**  
 小型栈橋1基[新規計画]
- 物揚場(-4)100m → **計画削除**
- 土地利用計画 危険物取扱施設用地23.3ha → **工業用地23.3ha[既設の変更計画]**  
 既定計画(危険物取扱施設用地等) → **計画削除**
- 土地造成計画 既定計画(危険物取扱施設用地等) → **計画削除**



# 大阪港港湾計画 一部変更

前回改訂:2019年3月(目標年次:2020年代後半)



## 【計画変更のポイント】

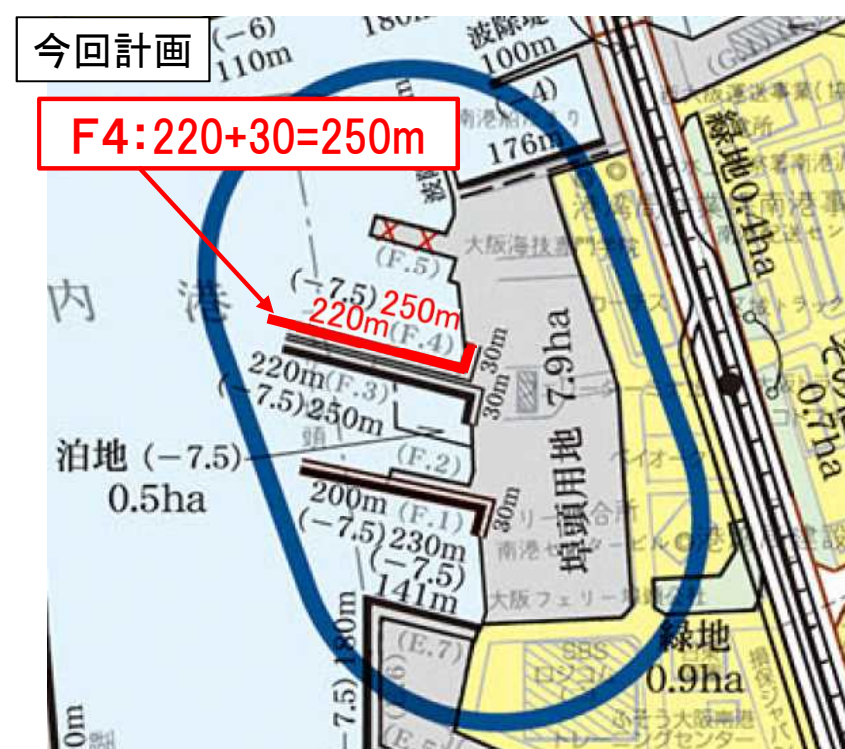
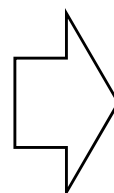
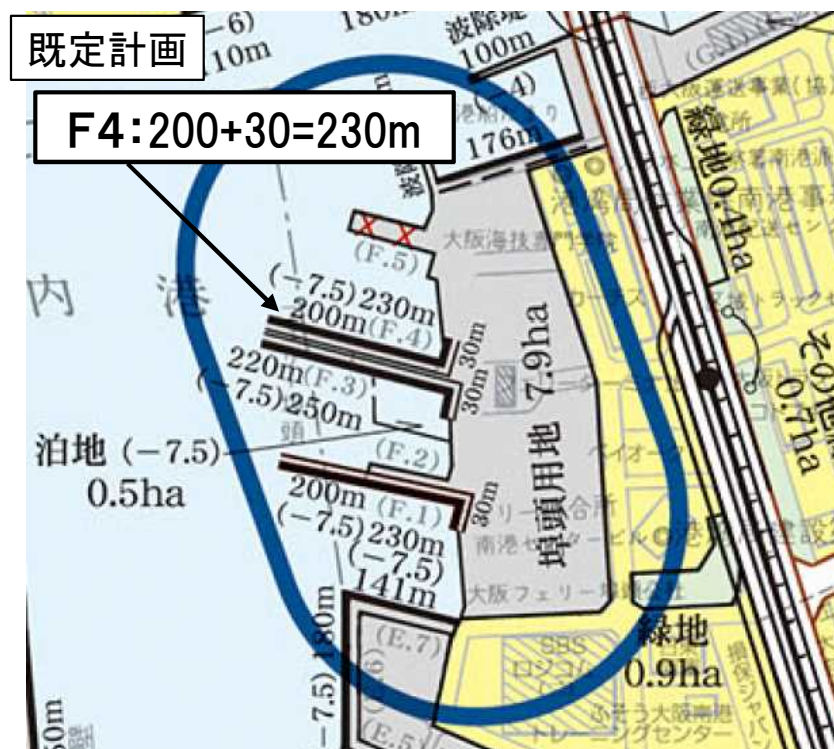
- フェリー(大阪～新門司)の大型化に対応するため、岸壁を延伸する。

## 【前回改訂からの状況変化】

- フェリー(大阪～新門司)は2021年度に新造船2船が就航予定(全長167m→195m)。

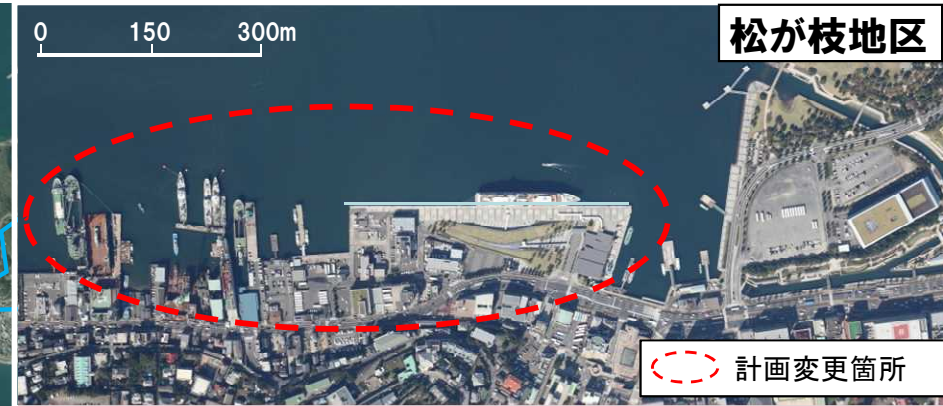
## 【主な計画変更内容】

- フェリー埠頭計画  
岸壁 水深7.5m 1B 230m → 250m [既設の変更計画]



# 長崎港 港湾計画一部変更

前回改訂:平成26年 7月(目標年次:平成30年代後半)



# 計画変更の内容

## 【計画変更のポイント】

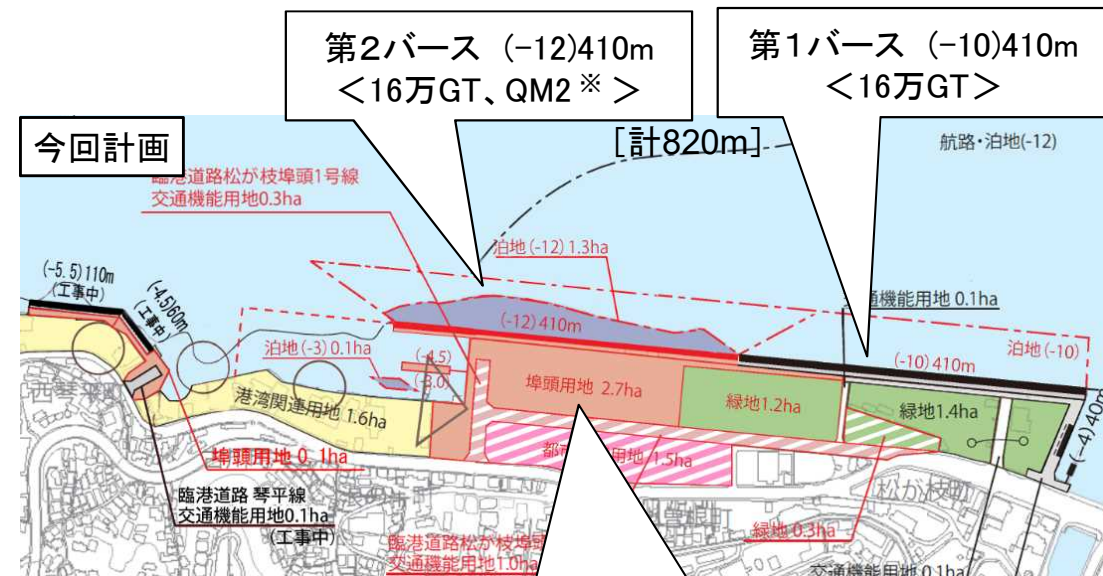
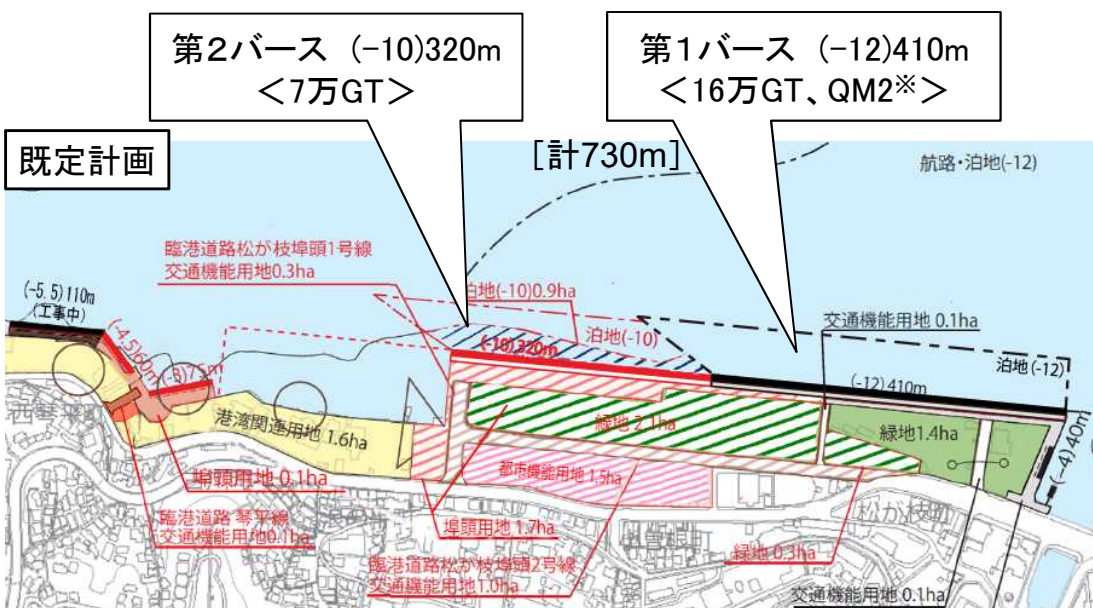
近年のクルーズ需要の急増及びクルーズ船の大型化に対応するため、クルーズ船の受入機能の強化を図る。

## 【前回改訂からの状況変化】

- クルーズ船寄港数の想定以上の増加、大型化の進展
- ・寄港数：当初想定 129回→2018年 220回
- ・16万GT級：当初想定 0回→2018年 66回

## 【主な計画変更内容】

- 旅客船埠頭計画
  - 第1バース（水深12m）410m → **（水深10m）410m**
  - 第2バース（水深10m）320m → **（水深12m）410m**
- 土地利用計画
  - 緑地→**埠頭用地（0.9ha）**



緑地→埠頭用地（ターミナル施設等）



16万GT級  
2隻同時着岸可能な環境整備

※クイーン・メリー2（15万GT級、必要岸壁水深12m）